

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000521		
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	宮崎県児湯郡木城町大字椎木4007番地2		
自己評価作成日	令和3年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも気軽に立ち寄れるように、外門、玄関には施錠していない。 ・嚥下機能訓練を目的に食事前に口腔ケア体操を行い、美味しく食事が頂けるよう支援している。 ・お茶を飲む時間は利用者と一緒に過ごせるよう(会話できるよう)努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは日頃から地域との交流を大切にしており、散歩で出会った人たちと気軽に言葉を交わしたり、差し入れを頂くなど、良い関係づくりを行っている。町民文化祭には入居者が作成した作品を、毎年出展している。現在、コロナ禍であり、これまで行ってきた多くの外出支援は出来ないものの、年間行事を大切にし、入居者と一緒に準備し、楽しめるように取り組んでいる。定期的に発行している「こすもす便り」には、生活の状況や行事の様子を、多くの写真で分かりやすく伝えており、家族からも「元気に過ごしている姿を見て、安心しています」という返事が届いている。入居者が出来る事は職員と一緒にすることで、生活の主体としての意識が持てるよう、職員間で話し合い、支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本として、年度初めに職員理念を話し合っている。また、その理念を職員間で共有し、実践につなげている。	毎年、年度始めに法人理念をもとに「全職員でどんな職場にしたいか」を話し合い、職員理念を作成している。職員室および玄関、ホールに掲示し、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの影響で、交流の機会が少なかったが、例年は地域行事への参加や、読み聞かせボランティアとの交流などを行っている。	コロナ禍ではあるが、感染状況をみながら読み聞かせボランティアの受け入れや散歩時の近所の方たちとの交流、町民文化祭への作品の展覧などを通して地域との関わりを大切に続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルス感染防止のため奉納できなかったが、毎年利用者様手縫いの手拭きを作成し、近くの神社へ奉納している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町役場や包括支援センターの担当者、地区の民生委員、ご家族代表にご参加頂き、ホームの現状や取組、利用者様の状況等を報告している。また、参加者からご意見を頂き、サービス向上に取り組んでいる。	コロナウィルスの感染状況に応じて、書面での実施や参加者の規模を縮小しての開催となった。家族には事前に意見を伺い、コロナ禍での面会や外出などの対応方法を運営推進会議で話し合い、報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通して、町役場の担当者へホームの現状をお伝えし、協力体制を築いている。困難事例や、感染症対策等についても、随時役場へ報告、相談を行っている。	今年度は、特にコロナ禍での家族の面会(県外者)への対応について町担当者へ相談し、助言を頂くことが多くあった。また、運営推進会議にも参加して頂き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束適正化研修を職場内で行い、職員同士で身体拘束についての情報や意識を共有し、理解を深めている。日中は玄関に施錠をしない。	身体拘束指針をもとに、職場内での研修を行っている。スピーチロックについての「意識調査アンケート」や「自己点検シート」を実施し、各自の振り返りを行うなど、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の身体拘束適正化研修時に、虐待についての研修も同時に行っている。職員がお互いに言動を注意し合うことで、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や、成年後見人制度については、職員が理解出来ていないことも多い。今年には新型コロナウイルスの影響で研修等が行えなかったが、今後は状況を見ながら研修等を実施し、学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には契約書や重要事項説明書等での説明を行い、不安や疑問点がないかを確認している。不安等については十分な説明を行い、利用者様やご家族が理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等にご家族から意見・要望を頂けるような雰囲気作りに努めている。ご家族の意見・要望は、職員全員で把握・共有し、運営に反映させている。	面会時にこまめに声掛けを行い、意見や要望があげやすい関係づくりを行っている。「職員の顔と名前が一致しない」との意見を受け、玄関から見やすい場所に、職員の写真と名前を掲示するようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員からの意見・提案を聞く機会を設けている。また、代表や管理者は日常的に職員と交流し、意見や提案を聞き、運営に反映させるよう努めている。	代表や管理者は職員会議や日頃の交流の中で、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、体調面などへの目配り気配りを行い、必要に応じて、個別に話を聞く機会を持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休や希望休が取得しやすいよう配慮するなど、職員が働きやすい職場だと思えるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年には新型コロナウイルスの影響で研修の機会がほとんどなかったが、例年は外部、内部研修を行い、職員の知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入している。今年には新型コロナウイルスの影響で研修等の開催がなかったが、例年は研修会、交流会に参加し、同業者との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用者様本人の不安や要望を伺い、職員間で情報共有している。本人の言葉にゆっくり耳を傾け、安心できる関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族の困っている事や不安な事・要望等を伺っている。面会時等に何でも話してもらえるような信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様本人とご家族の状況をしっかりと把握し、話し合いを行って、利用者様に本当に必要なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯など、各利用者様にできる家事を職員とともに行っていただき、暮らしを共にし支えあえる関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響で、ご家族からの支援の機会が減ってはいるが、病院受診や行事参加等を通してご家族との絆を深め、共に利用者様を支えていく関係性を築くよう務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため、ご家族との外出、外泊や町の行事参加が出来なくなっているが、感染防止対策を行っての美容室利用など、出来る範囲での支援を行っている。	家族からの手紙の返信を職員と一緒にしたり、家族や友人と電話で話す機会を持つなど、これまでの関係性の継続を大切に考え支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握して座る場所を決めるなど、孤立せずにお互いが係わり合い、支えあえるような支援を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様退所後も、ご家族から様子を伺うなどして、必要に応じた相談・支援を行えるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望を伝える事が困難な方も多いが、日常会話や表情から本人の意向を把握するよう努め、本人本位の、より良いケアを行えるよう検討している。	入居者の会話や表情、行動を細かく記録している。対応に苦慮する時には、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」の24時間シートを活用し、その人の思いや意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人やご家族、ご友人などから、在宅時の様子等を伺い、生活歴を把握してサービス提供に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録類や毎日の申し送りを通して、利用者様一人ひとりの現状を、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎月モニタリングを行い、職員会議で話し合った結果を介護計画に反映させている。利用者様やご家族からは、日常の関わりの中で希望や意向を確認するよう努め、現状に即した介護計画を作成している。	入居者や家族からの情報、医師や訪問看護師、薬剤師からの医療面の意見をもとに、職員間で検討し、介護計画を作成している。介護計画の内容を日々の記録で評価し、適切なモニタリングに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の介護記録を記入し、職員会議等で情報を共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本人やご家族の現状を把握し、その時々ニーズに合ったサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、地域との交流機会が少なくなっているが、感染防止対策を徹底しながら、出来る範囲でボランティアの訪問などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう、通院支援を行っている。受診時には必要に応じて文章等での情報提供を行い、主治医との連携を図っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診時には、必要に応じてバイタルチェック表や本人の状況を箇条書きにし、情報提供を行ない、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と連携し、利用者様の日常の体調管理を行っている。訪問看護師への相談も随時行い、適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐに情報提供を行い、安心して入院生活を送れるよう支援している。入院中も病院と連携を取って状態把握に努め、退院時はカンファレンスに出席するなどして、病院との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期指針についての説明を行っている。終末期には、利用者様の状況に応じて医療機関や訪問看護等との連携を取り、随時ご家族との話し合いを行いながら、職員も含めたチームでの支援に取り組んでいる。	重度化や看取りが必要となった場合、指針をもとに本人や家族の意向を確認している。医療機関や訪問看護師との連携をはかり、必要時には対応方法の勉強会を行い、実践に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で実践力に差があるため、定期的な研修を行うよう努めているが、現在は新型コロナウイルスの影響で外部研修を受ける事が難しいため、ホーム内研修を行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルスの影響で、地域と協力しての訓練は行えていないが、ホームでの火災避難訓練を実施し、避難方法等の再確認を行っている。	夜間対応も含めて、年2回の自主訓練を実施している。避難用のマニュアルも作成している。しかし、コロナ禍であったこともあり、地域の協力関係を築きながらの災害対策までには至っていない。	様々な災害が想定される中で地域の団体にも協力を得て、より具体的な災害対策の実現に向けての取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心に配慮しながら、言葉かけや対応を行うよう努めている。また、職員会議や研修で、言葉かけや対応について振り返りを行っている。	職員は言葉掛けはその人の人格を尊重する上で大切な事であると考え、呼称は「さん」で統一し、敬語を主にしながらも、なじみのある方言を取り入れ、入居者が安心できる関係づくりを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日の希望メニューを決めてもらったり、入浴時に自分で着たい服を選んでもらったりと、希望や思いを表出できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活での規制はあるが、その中でも出来るだけ本人のペースで、希望する生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の利用や、美容室への送迎を行っている。また、服の組み合わせを利用者様と一緒に選んだり、季節に合った服装をして頂くなど、身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個々の状態に合った形状を工夫し、提供している。職員も一緒に食事を摂り、利用者様に台拭きや下膳、食器洗い等の手伝いをして頂いている。	食事作りは職員が行い、入居者の出来る事は手伝ってもらっている。お誕生日の希望食や新年会、敬老会などのお祝い膳も職員が手作りをしている。食事を一緒にとることで、会話を楽しむ時間にもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を記録し、状態把握している。個々の摂取状況や体調等に応じて、提供量を調整するなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや、就寝時の義歯洗浄消毒を行い、口腔内の清潔保持に努めている。本人の能力に応じて、出来ない部分の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄状態を記録し、一人ひとりの排泄パターンに応じた支援を行っている。極力おむつは使わずに、トイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄記録から個々のパターンを把握し、誘導を行っている。夜間、歩行が不安定な方はポータブルトイレを設置し、それ以外の方はセンサー対応でトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し、個々の状態に応じた予防に取り組んでいる。毎日牛乳やヨーグルトを提供し、スムーズな排便を促せるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を希望通りにする事は難しいが、本人の体調や気分に合わせて、柔軟に対応するよう努めている。入浴剤を使用し、温泉気分を楽しんでいただいている。	入浴拒否がある方には、順番や入浴日の変更など、本人のタイミングを計るようにしている。また、声かけの仕方や関わり方を職員間で検討するなど、個々に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や希望に合わせて、個々のペースで休息して頂いている。夜眠れない時は、眠れるまでテレビを見たり、職員が不安等の訴えを傾聴したりして、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表の確認と、状態変化等の情報共有を行っている。また、服薬後のチェック表を記入することで、服薬忘れや誤薬を防止するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、掃除や洗濯物干し、新聞取りなどの役割を持ち、生活にやりがいを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、自由に外出する事が出来ない状況ではあるが、園庭での外気浴や近隣の散歩を行い、少しでも気分転換できるよう支援している。	コロナ禍で遠出は出来ないが、気候の良い日は、毎日のように外気浴や散歩を行っている。寒い時には難しい日も多いが、焼き芋や大掃除の時には入居者も外に出て一緒に参加して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームで管理している。現在は新型コロナウイルスの影響で外出できない為、利用者様本人がお金を使う機会がないが、普段の外出時には、自分で支払いを行なえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話をかけたり、かかってきた電話をとりついたりしてしている。また、ご家族から来た手紙の返事を一緒に書くなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度差に注意して、冷暖房の使用や換気をこまめに行っている。また、利用者様が作った季節の飾りや、行事の写真、花などを飾り、季節を感じて頂けるよう工夫している。	コロナ禍ということもあり、入居者が安心して過ごすことが出来るよう、職員は清掃、消毒、換気、座る間隔に配慮した対応を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置き、気の合う方と一緒に座ってお喋りをしたり、1人でゆっくりテレビを見たりと、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を居室に置いたり、家族写真を飾ったりして、それぞれが居心地良く過ごせる居室作りを行っている。	本人の好きなキャラクター(ディズニー)グッズを部屋に飾っている方もおられ、入居者ご自身が居心地が良いと感じる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を貼ったり、必要に応じて貼り紙をしたりして、自分の部屋が分かるよう工夫している。トイレや浴室などの共有部にも分かりやすい表示を付けている。		